

令和元年度 第1回 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町
 社会福祉活動支援地域協議会 会議録 (議事要旨)

| | | |
|------|--|--|
| 日 時 | 令和元年5月28日(火) 午前9時45分～午前11時45分 | |
| 場 所 | 岸和田市立浪切ホール 4階 交流ホール | |
| 出席委員 | 川井太加子 委員(座長) 他19名 | |
| 欠席委員 | なし | |
| 事務局 | 岸和田市 | 福祉部長、福祉政策課長、福祉政策課職員、障害者支援課長、介護保険課長、子育て支援課長、子育て施設課長 |
| | 泉大津市 | 福祉政策課長 |
| | 貝塚市 | 高齢介護課長、子育て支援課長 |
| | 和泉市 | 福祉総務課長補佐 |
| | 高石市 | 社会福祉課長代理 |
| | 忠岡町 | 地域福祉課長 |
| | 5市1町 広域事業者指導課 | 広域事業者指導課長、調整主幹、他職員5名 |
| 傍聴者 | なし | |
| 次 第 | <p>1. 開 会</p> <p>(1) 委嘱状交付</p> <p>(2) 市長挨拶</p> <p>(3) 委員の紹介</p> <p>(4) 報告事項・確認事項</p> <p>(5) 座長・副座長の選出</p> <p>2. 案 件</p> <p>(1) 地域の福祉課題に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動を担う団体等がこれからも継続して活動していくためにー組織活動の在り方や新たな方策・アイデアについてー ・社会福祉法人の地域貢献 ー災害時の支援ー <p>(2) その他</p> <p>3. 閉 会</p> | |

| | |
|------|---|
| 配布資料 | 1. 会議次第 2. 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町 社会福祉活動支援地域協議会 委員名簿 3. 岸和田市・泉大津市・貝塚市・和泉市・高石市・忠岡町 社会福祉活動支援地域協議会 設置運営要領 4. 地域協議会の開催の趣旨について 5. 地域福祉活動を担う団体等がこれからも継続して活動していくために ー組織活動の在り方や新たな方策・アイデアについてー 6. 社会福祉法人の地域貢献 ー災害時の支援ー |
|------|---|

【議事】

1. 開 会

2. 案 件

(1) 地域の福祉課題に関すること

○地域福祉活動を担う団体等がこれからも継続して活動していくために
ー組織活動の在り方や新たな方策・アイデアについてー

〔座 長〕 では第1番目の案件ですが、和泉市社会福祉協議会●委員よりご提案をいただいています。よろしくお願いします。

〔委 員〕 和泉市社会福祉協議会の●です。よろしくお願いします。私はこの社協に入って9年ぐらい経ちますが、だんだんと地域福祉活動を担う団体さんの人手不足が顕著になってきているのかなあとと思います。ボランティアさんの成り手がいなくなったり、町会も、まず町会に入らない人も多くなったり、町会の役員に成り手がいないとか、いろんな団体が同じような問題を抱えていらっしゃるように思います。

和泉市社協では、一つの地域の福祉委員会の中でボランティアの代表が決まらず、ボランティア組織が休止している状況です。町単位でのいきいきサロンや見守り活動はやってくださっていますが、町外のボランティアの代表がいなくなった結果、市社協で何かをお願いするとか、市全域でこんなことをやっていただきたいという時に一つの地域だけ連絡が取りにくい状況です。なんとか今年度に復活できるようにと思っていますが、いいアイデアがなく、どうしたものかと思っています。

地域住民で構成されている団体としては町会や自治会、民生委員、地区福祉委員、老人クラブ、婦人会があり、当事者団体としては障害者団体や母子福祉会があります。テーマのあるボランティア団体として、保護司会、防犯委員、青少年指導員などがあります。色んなところで話を伺うと、中々成り手がいない、代表者が決まりにくいという状況です。今迄どおりのやり方ではどんどん衰退していくのではと考えられ、この辺で手を打たなくては地域の福祉活動をしてくださる団体が無くなってしまい、地域福祉が衰退してしまうのではと思っています。

今回一つの団体が抜けられた背景は、自治会もそうかなと思いますが、輪番制や抽選で会長を選ぶと、回ってくる前に辞めてしまったり、役員さんに負担がかからないように1年交代にすると、役員1年間では前年度と同様にするだけで精一杯で、新たな取り組みをできる人はいないと思います。2年間やれば来年はこうしたいというのがあると思うんですが、交代するので出来ない。引き継ぎで、こんな事すればいいと

思うよと次の役員さんに言っても、次の役員さんは初めてで出来ない。早く役員を抜きたい、というのを多くの団体で聞いています。役員さんを長くやってくれている団体や地域はすごく活発で進んでいる。福祉活動を楽しくできれば続くのではないかと
思うんですけど、福祉委員会や自治体活動がなんとなくやらされている、しんどいというイメージが先行し、うまく回っていかず、いいアイデアがあれば教えて欲しいと思っています。

[座長] ありがとうございます。今、●委員から言っていたのは、どこもあるかと思いますが、町会自治会も成り手がいない、校区や老人クラブの会長なども、次を担う人がいなくて継続が深刻になっているということだと思います。

ウチはこんなことして良くなったよ、改善されて成り手が育っているという画期的なアイデアをお持ちの方がいらっしゃれば、お願いします。いかがですか。はい、●委員。

[委員] 私は岸和田の山手にある光明地区で活動しています。従来、岸和田市には市民協議会という組織があったんですが、その市民協議会の中の福祉部会と地区福祉委員会が混在していたんです。それを平成19年に市民協議会と地区福祉委員会は独立したもののなんだから、正当な形に戻そうと、地区福祉委員会を独立した組織、光明地区福祉委員会として立ち上げて運営しましたら、今言われたような問題が発生してきたんです。町会の各種団体の役員さんが委員で1年交代なので、せっかくできた素案がまたゼロからなるんです。これはダメだということで、平成22年に組織改革しました。

各種団体の役員さんの肩書きをはずしてもらい、一個人のボランティアとして参加してもらおうと3町会に呼びかけて、100人のボランティアを登録いただきました。それから全てボランティア活動として地区福祉委員会を運営しています。なおかつ、本来地区福祉委員会は校区の連合町会長が会長職をしていますが、会長が前に立たれるとボランティアさんから意見が出にくいということがありましたので、ボランティアの中から幹事長を選び、幹事長運営をしました。100人のボランティアの中で30人の幹事を選び、2か月に1回の幹事会を運営しながら月々の活動計画や運営のお知らせを行っています。継続性がものすごくあって定年がなく、年長者では85歳の人も幹事で参加していただいています。当て職にすると成り手がいないという問題が出てきます。ボランティアを中心に小地域ネットワーク活動を中心に活動しているというのが実例としてあります。

[座長] ●委員、今のご意見に対して何かございますでしょうか。

[委員] 組織を変えられたということで、和泉市もほとんどが各町会長さんが役員になっていて、役員を辞めたら地区福祉委員から抜けていかれるので、組織を変える話を持っていきながら、やっていけばうまくいくなあと思いました。それを、できれば他の校区も今は動いているけれど、やっぱりしんどいということを知るので、少しずつ組織改革を
すると活動が継続的で活発になるのかなと思います。

幹事の方はずっと長く続けられていいなと思います。あと定年がない、ボランティアは辞める方はないということで、すごく参考になりました。

[座 長] はい、ありがとうございます。座長の私が喋ってどうかと思いますが、役員になる人がだんだんいなくなって困っているという話は色んなところで出ています。

話を聞いていく中で、自治会長は持ち回りでもいいけれど、その自治会長をサポートする人・団体が継続してずっとあるというような、サポートする事務局みたいな所が1か所あって、その地区だけでなく市の中でサポートする団体が、自治会長が変わっても今までの流れを把握して継続的に流れるようにサポートしていく。そういうことが必要なんじゃないか、というのを去年ぐらいに話し合ったことがあるんです。

きっかけは何かというと、毎年自治会で花火大会をしていて、子どもも喜ぶし町内からも集まってくる。だけどそれを企画する人がしんどくて辞めたいと、どうしたら続けられるのかと言ったときに、地域の人を手伝うけど事務局的な仕事を継続して担っていくのは勘弁してほしいというご意見でした。

結局その地区は、サポート体制をとって慣れている人が担っていくということで、まだ結果としてこうなりましたという報告はできませんが。これからは組織の在り方と仕事の中身を考える、他でサポートできるところは誰かがサポートする、そんな仕組みも大事かと思います。どなたかどうでしょう。

[委 員] 高石市の社会福祉協議会です。●委員の話を聞いて、高石市でもそのような問題が起こっているのは事実で、高石市の場合は校区福祉委員会が7か所あり、顔ぶれを見るとほとんど変わらないメンバーが出ておられるんです。

ただ、画一的に先ほどのような形で組織改革するのにあてはまるのかと。というのも、高石の場合は校区福祉委員会が設立されて去年で40周年を迎えたんですけど、それぞれの校区で歴史がありまして、自薦他薦で委員長になり、その人が長期で委員長をして組織を運営している所と、それぞれの校区の自治会長がトップに立って2年交代にしている所がありますので、高石の社協の場合は地区の相談員等がいきいきサロンやコミュニティカフェに出向き、委員長さんはじめ地域の皆さんと親しくなり、その地域・校区がどんな歴史で今どのような組織になっているかを把握して、社協に持ち帰りその校区にあった継続性のある組織体を作って行くためのサポートを社協としてやっていけばいいのかなと今感じているところです。

[座 長] ありがとうございます。社協がサポートを担っていくということですね。他に、今ここは民児協の会長さんたちがいらっしゃいますが、委員の成り手などで困っている話などありますでしょうか。●委員いかがでしょうか。

[委 員] 民児協の担い手はしんどい状態です。今年任期満了になるので前もって言っていないといけないのかなと。やり方を変えないと担い手は出てこないし、今年が65歳なので、それから受けるとなると、よくやっていただいて2期か3期なので、もっと若い人が受けていただけたら長期で色んなことをわかっていただける。その方法もなかなか前に進んでいないのは事実です。

[座 長] 役割をもっと簡素化してサポートする人がいれば、若い人が前に出てやれるんですね。

[委 員] 民生委員という名前だけで、あー無理無理っていう感じになるので、いや、そうじ

やなく、高齢者や子どもの見守りでお願いしたいんですけどもそこまで出来ない
と。専業主婦が少なくなってきたのも事実ありますね。

[座長] 民児協が難しいのは決められた役割、立場があるからですかね。他にご意見ござい
ませんかでしょうか。

[委員] 私は老人クラブの代表です。同様の悩みを我々も持っていますが、どちらかとい
うと老人クラブは自由な活動をさせてもらっています。町会自治会と老人クラブの関係
は、今や町会運営できるくらい老人クラブのメンバーが町会の役員です。

私の地域では老人クラブの立場は発言しますから非常に強いものがあり、地区福祉
委員会の会長も尊重していただいて発言しやすいし、活動にどんどん入っていきます。
ふれあい喫茶は非常に普及していて老人クラブが運営している形が多いです。老人ク
ラブはバス旅行やカラオケ大会がほとんどだと思わないで、もっと老人クラブを活用
していただけたらと思います。

[座長] ありがとうございます。貝塚は老人クラブと一緒にやりましょうと協力いただいて
良かったですね。

他のところも見直すことで繋がっていくものがあるかもしれませんし、先ほど●委
員がまとめてくださいましたが、それについてご検討いただくということと、私が一
つ申しましたように、何か全体で取り組むのではないけれど、困っている地区をサポ
ートする体制が、別の団体や地域の社会福祉法人で担っていただけたところが出てく
ればいいなと思いました。

○社会福祉法人の地域貢献－災害時の支援－

[座長] 続きまして、社会福祉法人建仁会様からご提案がありましたので、お願いしたいと
思います。水間ヶ丘施設長の●さん、どうぞよろしく願いいたします。

[建仁会] どうも、皆様おはようございます。ご紹介いただきました、社会福祉法人建仁会の
●と申します。よろしく願いいたします。

まず、私ども社会福祉法人建仁会についてご紹介させていただきます。平成4年、
1992年に貝塚市にて社会福祉法人を設立しまして、今年で27年目を迎えます。現在
介護保険事業として、特別養護老人ホームの従来型、ユニット型、地域密着型のユニ
ット型の入所施設と、ショートステイ、デイサービス、地域密着型のデイサービスセ
ンターのほか訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター事業など
を高齢者の方を対象に行っているのに加えて、ショートステイと訪問介護では障害者
の方も対象としてサービスを提供しております。その他の事業としましては、サービ
ス付き高齢者向け住宅を運営しております。私たちは個人の尊厳の保持と介護福祉サ
ービス利用者の自立支援、地域とともに地域福祉活動の推進、ということを法人の理
念として取り組んでおります。

そんな中、昨年台風21号が発生しました。法人がある地域では屋根瓦が飛ばされ、
街路樹の一部が折れたりしましたが、電気や水道といったライフラインは保たれまし
た。ところが、道路を隔てたところでは電線がたわみ、道路標識や信号が歪み、街路

樹は根こそぎ倒れ、片側2車線の道路が塞がれるような状況がありました。夜間になると電気がつかず真っ暗という状況でした。その翌日、安否確認で高齢者宅を訪問させていただいた時です。元気になっていることを離れた家族に伝えたくても、頼りの携帯電話の充電ができずに、情報も届かない状況の方がいらっしゃいました。これは停電の影響です。そこで施設のロビーを解放し、ソファで休んでもらいながら施設のコンセントを利用してもらうことにしました。また、たまたま安否確認で訪問した高齢の利用者宅は、給水車が来ていたんですが、ご自宅の上層階まで階段で水を運ぶことができずにお困りでしたので、訪問した職員がその方の自宅まで運ぶお手伝いをさせていただいたということがあります。

そこで、ご提案の1点目ですが、災害時に社会福祉法人や公的機関が、ライフラインが途絶えている地域の要援護の方や特に情報が届きにくい高齢の方などに、休憩場所や携帯などの充電ができますよといったこと、困りごと相談を受け付けてますよといったことを事前に周知しておいたり、実際に災害が起きた時に、その取り組みがウチではやってますよということを広くアナウンスできないのかなと思いました。例えば、こども110番の家の旗は最近よく見かけると思うんですが、そんなふうに関目印を事前に考えておいて用意することもできるのではないかなと思いました。また2点目に、情報が届きにくい要援護の方を対象に安否確認の訪問にお伺いするとき、手段や方法の連携体制を、事前に地域の中で打合せなどできないかなと思いました。例えば飲み水や紙おむつ、乾電池といった支援物資を事前に決めておいて、必ずそれを持っていくんだとか、訪問は健康面と生活上の困りごとの両方を確認できるような組み合わせの2人1組で行うというのもどうかなと感じました。

災害はいつどこで起きるかわかりません。自分たちのできること、困ったときはお互い様の心で支えあえるような関係づくりが、それぞれの地域でできればいいなと思いました。

[座長] はい、どうもありがとうございます。具体的な経験からご提案いただいております。この件につきまして、皆さんのご意見や、実際に皆さんが災害をご経験された中でお考えになられたことなど、実際にどのような取り組みができるのか、何かアイデアや方法等ございましたら、ご提案いただければと思います。

●委員、貝塚の方はいかがでしたか。山手の方でのお話でしたから。何か。

[委員] はい。台風被害があつて3日後に初めての災害ボランティアセンターを立ち上げ、地域からのニーズにボランティアさんを派遣する形で対応してきております。

今回の台風被害において、市と連携が十分に取れなかったという反省があり、現在は災害時の連携に関する協定を結ぶための準備を進めている状況です。ライフラインがストップして水道が止まってしまったという中で、貝塚の場合、地元の高校生がそういう団地の特に高齢者のお宅に100人規模で水を運ぶといったことがありました。社協として高校と協定とまではいかなくとも、事前に連携が図れるような関係を構築しておくことで、そういった地域からのニーズにスムーズに対応できるのではないかと、同時にその準備も進めているところです。

そして、貝塚では地域貢献委員会という社会福祉法人を中心とした委員会を昨年7月に立ち上げています。23法人が参加いただき、水間ヶ丘さんをはじめ各種の施設が登録いただいておりますので、災害時要支援者の方を支えるような、休憩場所や携帯電話の充電サービスなどの受け皿になれるような取り組みというものを是非検討していきたいと思っておりますし、災害ボランティアセンターを立ち上げた時に、地域住民からの困りごとについて、いち早くキャッチする立場でもありますので、地域の施設さんがこういう貢献活動をされていることを発信していく立場としても、今後連携を検討していければと感じました。

[座 長] ありがとうございます。今日ご提案いただきましたようなことは、災害時に特別養護老人ホームなどが「こういうことができるんだ」ということを身近なところから情報発信していけたらいいんじゃないかと思えます。

他に何か、こういうことをやってもらえるといいなということをお持ちの方ございますでしょうか。今回経験されて、こんなことをやりましたというご提案でも、できますよというご提案でも。はい、●委員。

[委 員] 岸和田市では、3年前、豪雨によって大きな災害が発生し、一部の地区が被害を受けまして、私ども民児協としても、とりあえず現地の民生委員・地区長と一緒に現地調査に行きました。でも我々が本来出すべく避難行動要支援者・要援護者への支援活動が必要な人もあったので、民児協としての共同開設はしなかったのですが、その後、貝塚市の以前の会長から応援に行かなくて良いかなあという支援のお言葉をいただき、近隣の市町から支援、応援のお声をいただきありがたいなあと思いながら、我々もその後、このまま放っておいてはダメだと、岸和田市には24の小学校区がありますが、こういう災害を全校区同時に被害を受けることはまずないだろうと、被害を受けた校区に被害を受けなかった校区はいかにして支援活動をするかを構築していく必要があるということで、一昨年から民生委員・児童委員協議会としての支援活動というものを形作って、今やっております。

24校区から1名ずつ校区委員を互選し、連携を取りながら、被災した校区を誰がどういう形で支援するのか、現地の視察に行くのか、物資を調達し物資支援や人的支援等の体制をとってやっております。先日も8市4町の民児協の泉州ブロックの会議で、そのことを報告させていただいた。避難行動要支援・要援護者に対する支援活動は民生委員の役割ですので、自町だけでなく近隣8市4町とも連携し、災害時支援対策の構築に努力しようと徐々に進めているところで、岸和田ではスタートしたところです。

[座 長] ありがとうございます。では、●委員は児童発達支援センターの保護者会の会長をしておられますけれども、この前の災害の時など何か、先ほどこんなことができますよという報告をいただいたんですが、そういう中で何か困られたり、災害時の観点で何かご意見ありますか。

[委 員] 私の地区は停電など、ライフラインは保たれたんですが、他の地区ではライフラインが途絶えたりなどがありました。児童発達支援センター松の実園もライフラインが途絶え、園自体が休園することになったのですが、そもそも休園の連絡が届かない、電話線

も止まっていたので、そういう連絡をどのようにいち早く繋げていくかというのは、とても大切なことかなと思いました。

あと、私は子ども2人とも障害を抱えております。今回はたまたまライフラインが保たれたので何とかりましたが、やはりライフラインが途絶えた時、どの様に生きていけばいいのか、避難すればいいのかというのを、より明確にきめ細かに教えていただければなと思います。色々発信していただいていることはたくさんあるんですが、私たちの方は日々の生活のことで精一杯で、先ほど民生委員さんのお話等もお聞きしましたが、その情報を見る時間がない、知る機会がないということがどんどん増えてきています。ですから知る機会を増やしていただければなと思います。

[座長] はい、ありがとうございます。そうですね。私たちはついつい情報発信、透明化という言葉が気軽に使うんですが、それを得るための操作があるとか、時間に出かけて行くとか、行動を起こさないといけない訳です。けれども、今おっしゃっていただきましたように色々な状況下で、自分から得ていくことが難しい方もいらっしゃいますので、そういう方々にどう情報を届けるかということも課題としてあがってくるのかなと思います。

他にいかがでしょうか。では、和泉市の障害者団体の●委員、いかがでしょうか。

[委員] 障害者と言いますと4つぐらいのパターンに分かれるんです。障害者は健常者と一緒の高齢化しています。ですから障害プラス高齢なんです。これが一つと、目が悪いあるいは耳が悪い、目の悪い方はいくら文字で表示されても感知することができない。それから耳の方はパトロールカーが避難してくださいと言われても、全く何が起きているのか、何かバタバタしているなど。そして、●委員がおっしゃいました知的障害あるいは精神障害の人は、非常時にパニックになってしまう。横に親御さんがいれば何とか対応できるでしょうが、いくら協力者がいても障害児あるいは精神障害者の対応をする人がすぐ横にいるというのは絶対にありえないわけです。行政の方からこうしているということですが、実際、非常時にどこまで高齢者並びに4つの障害の方々にパニックになった時の対応が、口で言うほどそのようにできるのかと、恐らく怖いから先に逃げるのではないかと心配しています。どこまで我々障害者をカバーできるかなというのが現状です。

[座長] ありがとうございます。例えばこの前熊本であった地震では、小さなグループホームが地震で倒壊まではいかなかったけれども、そこで皆で生活することは難しいということで、そこがそのまま丸ごと大学の校舎を借りて生活を始められたというような例もあります。そういうことを施策、拠点みたいなところで、被害が少なかったところが協力していただけるということも、人数に限りがあるかもしれませんが、できるのかも。今までの災害は、経験が次に活かされてこなかったというような反省がいつもされますが、必ずしもそうではなく、過去の災害の経験から事前に準備しておけるものを、何ができるのかということで進めていますので、さっきのご提案の特別養護老人ホームでこれだけ多角的にこんなことをやっていて、今回こういう支援ができる

ということをご提案いただきましたので、障害の皆さんにどう発信できるのかということをご提案いただければいいかと思います。

他にどなたかございませんでしょうか。はい、●委員どうぞ。

[委員] 今回の●さんのところの取り組みは市の広報などには載ったんですか。ロビーを解放してソファで休んでもらったり、施設のコンセントを使って携帯電話を利用していただいたということで、和泉市でも、ある団地のある住民さんが、道路を挟んでこちら側は停電じゃなくあちら側は停電で、その住民さんは停電じゃなかったの、コンセントをどうぞ自由に使ってくださいということを書いて置いてくれてたんですね。こういう社会福祉法人や住民のいい取り組みを市が広報することで、他の社会福祉法人も、うちもこれだったらできるかもしれないとか、住民もこれならできるんじゃないかと皆が思えば困っている人が少しでも解決すると思うので、その辺は市はどうだったのかなと思いました。

[座長] ありがとうございます。●委員が言ってくださったように、ここがそういう場になればいいんですが、社会福祉法人の皆さんがここに来られている訳ではないので、今日のようにご提案いただく人をもっと募って提案していただいてそれを市から示していただく、もしくはここに来られている皆さんが発信役になることが、この場の役割かなと思います。他にございませんでしょうか。では、副座長お願いします。

[副座長] 2つの報告をお聞きしまして、本当に連携がすごく大切だなと感じましたし、災害時の問題にしましても、先ほど言われましたように、高齢であり障害であり視力低下も聴力もいろんな形の人たちが地域に住んでおられて、その人たちが災害時に不安な状態で生活しているということを皆が自覚して、緊急時の支援をどのような形でできるかということ、体制をしっかりと確認していかないといけないのかなと感じました。

そして、役員の成り手がいないというのは本当に私も大変困っているのですが、1年先、2年先じゃなくて、5年先、10年先の役員の担い手をどうやって育成していくかというところがすごく問題なのかなと感じました。

[座長] ではもう少し時間もございますので、一言ずつ感想でもかまいませんし、何か自由なお話でもかまいません。では、●委員。

[委員] 皆さん、色んなお悩みがあるんだなと思いました。私も民生委員・児童委員協議会の会長をしながらある自治会の会長もしてしまして、後継者の話は大変実につまされる思いで、中々後継者がいないということで、ここで良い話を聞かせていただければと思うのですが、自治会も今年改正で、役員もできるだけ新しく引っ越してきた人の中に入れるというのと、もう一つは去年の台風の時に祭礼団体の青年団が非常に活躍してくれまして、その年代層の中で泉大津市内または近隣で働いている人をピックアップしてもらっています。できるだけそういう人をいざという時に自治会で活動班として取り組めるように進めようかと思っております。

[座長] ありがとうございます。

[委員] 貝塚市●です。民生委員が今年の11月末に改正で、定年で辞められる方が多数おられるので、次の担い手の相談も去年ぐらいから話しています。

民生委員になると民生委員活動だけではなく福祉の活動も全て担っている状況なので、少しでもその状況を改革して、民生委員さんだけが出来る活動に絞れたらなど、社会福祉協議会も含めて話をしている状況で、民生委員さんの活動を少しでも軽くして、担い手を作っていきたいと始まっているところです。

[座長] ありがとうございます。次の方をお願いします。

[委員] 和泉市の●です。台風 21 号が来るまで和泉市は災害はないだろうと皆安心して暮らしていたと思うんですが、いざ来てみて初めて大変だということで、何をしていたかわからない。日頃こういうことをしなきゃいけないと言いながら中々出来ていなかった。それを踏まえて色んなことをしなきゃいけないなど、色んな組織がありながら防災のことに中々進んでいなかった、というのが反省であったと思うんですが、その中で日本人というのは皆親切ですね。何か起こって困っていると、助けようとしてくれるんですけど、それ以上に自分が情報を得ることが安心の一つ、情報を得ると動けるといふところがあるんです。私は和泉市に住んでいますが岸和田市に近いので、台風の時もそうでしたが、岸和田市の情報が携帯に入ってきて、岸和田市はこんなだったんだなど、忠岡町の情報が入ってきたら忠岡町はこんなことあったんだなど知って安心する。人っていうのはそういう安心が一つ得られるとまた行動に移れるといふところがあると思うんです。今日初めてここに参加してこういう会があることがわかったので、できましたらこの情報を色んな地域に発信していただけたら有難いなと思います。

[座長] はい。ありがとうございます。では続いてをお願いします。

[委員] 今年の 11 月末で民生委員が改選で、私も何軒か委員さんお願いしますと言ってますが、中々次の担い手不足というか断られてばかりです。自信を無くしてきてちょっと困っている状態です。

去年の台風 21 号で忠岡町も被害を受けて、瓦とか色んなものが出ましたが、私のところはお祭りがあり青年団や色々な組織が結構しっかりしているので、青年団に要請したら何人かはすぐ出てきてくれたんです。こういうことも大事ですね。

それから、もう一つ感じたことは、台風 21 号のあともう一度台風が来ることになって、地域の避難場所の設置が早く決まり、一人住まいのところへ行き、早く非難してねと言って回ったんですけど、近所の人回ってくれたり、もしだめだったら一緒に避難場所まで行きますとか、そういう縁がかなりあったので、近所付き合いも大事ですね。色々近隣の疎遠が言われてますが、ウチのところはまだマシかなと一応安心した次第です。

[座長] ありがとうございます。それでは●委員。

[委員] はい。私は岸和田市手をつなぐ育成会という会の運営をしまして、知的障害者の集まりです。数十年前までは 100 家族以上の団体だったんですが、ここのところ随分分散化・小規模化してきまして、今現在 40 所帯前後の家族で運営しています。大きい団体の時はリーダーといふか中心になって動いてくれる人も自主的に手を挙げていただく方もたくさんいたんですが、小規模化するとどうしても一人が長になって動い

ていくと、あとお任せ的な、おんぶにだっこというような形で、何年たっても後任がつかないというような苦勞をしています。

そして、我々親の方も高齢化すれば同じように子どもも高齢化しています。するとどうしても自然の道理で親が死んだ後の子の人生という問題点に突き当たって、何とか親の目が黒いうちに子どもの人生のレールを引いてあげないといけないと、色々な社会福祉法人のグループホームなどに仲間入りさせていただいて、そこでその子の人生が全うできるような環境に持っていかうと苦心しております。だけど、そういうところに入っていけないお子さん、高齢の方もいらっしゃるのです、そういう方々の親御さんとの話し合いや、手伝いなども苦勞しているところです。

私も一つ言いたいのは、今、町会の福祉委員も長年やっています、いきいきサロンやコーヒーを飲む機会、月に2・3回集まって楽しく過ごしてはいるんですが、そこでもやってくれる人がいたら集まってくれるけれど、後、私がやりましょう、私が代わりましょうという候補の方が全然そろってこない。この前新聞に載っていましたが、高齢者の引きこもり人口というか、そういう団体の中に顔を出さない高齢者がどんどん増えてきている。特に男性ですね、男性は定年になったら、趣味とかで外に出歩く方もいらっしゃるでしょうが、会社の友人関係が断たれたら、家の中に引きこもって奥さんの行動にくちばしを挟んだり嫌がられたりという話をよく聞きます。こういう人たちを何とか社会福祉関係に引っ張り出せないかと。社会全体の問題として考えないといけないんじゃないかということをご提案させていただきたいと思います。

[座長] はい。ありがとうございます。では、●委員お願いします。

[委員] 泉大津で特別養護老人ホームを運営している社会福祉法人です。先ほど特別養護老人ホームで台風関連の話が出ておりましたけれど、そのことで、昨年の台風21号で経験した話ですが、私ども泉大津の方では台風の被害がなかったんですが、兵庫県の西宮市でも特別養護老人ホームを運営してまして、そちらの方で停電が起きました。停電が起こるとエレベーターが動かない、照明・空調が効かない、それから水道も動かない。というのは高層、建物が高いですからポンプで上げますので、それが全部ストップする。電気が止まるとライフラインが全く機能せず、施設の機能が全部パンクしてしまうという状況に陥りまして、どうしたかということ、近隣の特別養護老人ホームにお願いして一時避難させていただきました。やはりそういうところをお願いしないと、特養に入っている人は自力で動けない方が大部分ですので、お世話するのは介護職という専門職でないと一般の方にお手伝いを頼めない、専門性の高い仕事になります。結局、類似の施設にお願いして、近隣のところに避難させていただくことができました。

幸いなことに電気は1日で復旧し、短くて良かったんですが、こういうことを考えると、専門性のある施設同士は普段の連携がものすごく重要ということが身に染みてわかったわけです。泉大津の方は、近隣の方対象に泉大津市と災害時に避難受入という協定も結んでいますが、幸いそういう事例はありません。我々は、健常者ではなく専門性の高いことを必要とする方、そういう支援を要する方を優先的に受け入れてい

かないと、ということになりますので、自分たち社会福祉法人の機能を有効に活用できるような方策を考えていかなければならないと考えます。

[座長] ありがとうございます。では今日案件として取り上げたものと、お話をいただいたことを参考に、一つは人材養成と言いますか役員になる方々を、10年先を見据えて今から取り組んでいかないといけないというところがありますので、先ほどのお話で貝塚では23法人で地域貢献事業の委員会をされているということもありますので、他の市町村でもこういうことを法人で何かサポートとして取り組めることはないのかとか、そんなことも一つ議題の中に入れていただき、何かご提案いただくと、お手伝いいただく役を担っていただける人もあるかと思しますので、お互いに情報を出し合いながら精進できればなと思います。

お話を最後のまとめができませんでしたが、皆さんから今いただいた要点を整理し、情報発信していくことになろうかと思えます。皆さんどうもありがとうございました。

3. 閉会

以上